

船小ハイブリッドパワー

— 学校と家庭を結ぶ —

校長室だより No.24
“やさしく かしく たくましく”
～ 本気と礼節の教育 ～
令和4年5月13日 文責:安生昌弘

◆ 子どもにとっての授業参観

昨日の授業参観，ありがとうございました。授業開始が近づく教室では，親御さんに手を振る 1 年生やクールを装う 6 年生が見られました。授業が始まると，いつもは落ち着かない子も昨日は席に着いて頑張っていました。やっぱり自分の親には，学校での良い姿を見て欲しいと思うのでしょうか。



授業参観があるたびに，私は自分の長男の小学校初めての授業参観の事を思い出します。長男入学の年，私は別の小学校で 1 年生の担任でした。妻は長男と同じ船小に勤務の教員で 3 年生担任。授業参観の日程が重なっていたので両親とも出席することができません。「母親が同じ学校に勤務していて時々校内で会うわけだから，まあいいかな」と私たちは考えていました。また，長男も自分は両親が教員の子供でもあると自覚していて「授業参観に来れないのは仕方ない」と，すぐ諦めてくれるだろうと私たちは勝手に思い込んでいました。

授業参観前日の夜，妻は長男に言いました。「明日，お父さんもお母さんも自分の学級の授業参観があるから行けないの。ごめんね」と。それを聞いた長男は何も言いませんでしたが，目からは涙が一筋流れました。それを見て，私と妻は親の勝手な思い込みを反省し，もっと早くに話しておくべきだったと思いました。

◆ 子どもが喧嘩をする一因は想像力

子どもたちは，学校で学習するばかりでなく，集団生活での友達との交流を通して社会性を身につけていきます。友達と仲良くするだけでなく，時にはケンカもして人との付き合い方を身に付けるのです。しかし，子どもたちを見ているとケンカをする子が何人かに偏っていることに気が付きます。それには，その子の“想像力”がどれ位あるかに関係しているようです。



この“想像力”とは具体的には，こういうことです。A君「ねえ，遊びに交ぜてよ」。B君「いやだよ」。A君「意地悪言うなよ」とケンカになります。しかし，「いやだよ」と言われたA君に「前に，ぼくがB君に意地悪したのを根に持っていたのかも知れないな」とか「B君も誰かに意地悪されたのかも知れないな」というような“想像力”があれば，怒りの感情を抑えてケンカが回避されるかも知れません。“想像力”は“思いやり”に通じるとも言えるでしょう。

では“想像力”は，どうすれば身につくのでしょうか。一番効果的なのは物語や小説などの本を読むことです。知らず知らず，登場人物の心情を考えることになるので，想像力が身に付きます。学校でも国語科の物語教材や道徳科の読み物を扱う学習で人物の気持ちを考えますが，これは子どもの心の成長に役立っています。人は本が面白いので読むのですが，物語や小説などは自分以外の人生を疑似体験することになるので「心が豊かになる」と言われるのだと思います。

最近，ニュースを見ていると「世界中の人々に“想像力”があれば，戦争がなくなるのになあ」と思ってしまう。

学校と家庭がタッグを組み，一つ（ハイブリッド）になって2倍以上の力（パワー）で効果的に子どもたちを育てたいと願い，校長室だよりを『船小ハイブリッドパワー』と名付けました。